

東川町では初「グッドデザイン賞」を授賞

10月1日、「地域の働く人と仕事を発掘してつなぐ仕組み／コミュニティ」が2020年度グッドデザイン賞の「地域・コミュニティづくり」部門を受賞しました。しごとコンビニは、官民連携で取り組む業務委託型の短時間ワークシェアリング事業。4月下旬から6月末にかけて行われた「出前イーツ」や布マスクの作成をはじめ、現在その業務内容は多種多様。「自分のやりたい仕事をした時にできる」と多くの町民のみならず喜びの声をいただいています。ご興味のある方はぜひご連絡を！(☎73-8737)

【グッドデザイン賞とは】形の有無に関わらず、人が何らかの理想や目的を果たすための環境をデザインした。雇用以外での働き方を、スマートな形で見せてくれた。人手不足により継続や発展が困難な事業者にも有効なしくみであり、労使両者にとっていねいに寄り添う姿勢は、地方での仕事のマッチングのあり方の指針になる。登録者数や実施報酬額も多くその成果も高く評価した。



GOOD DESIGN AWARD 2020

旭川空港でも「東川ミーツ」コーナーがオープン

9月19日、旭川空港ターミナルビル2階の土産物店エアポート・リラ内に、「東川ミーツ」コーナーを新設しました。今年8月に旭川駅前オープンした東川町アンテナショップ第2弾です。

【東川町まであと一歩の場所】モノを売るだけの場所ではなく、モノが生まれる物語を含めた「東川町」との「接点を目指す」というコンセプトは変わらずに、このコーナーに使われている什器(棚など)もメイドイン東川。木のぬくもりを感じられる柔らかな空間となっ



【営業時間】午前7時55分〜午後8時
 (運航状況により開店が午前9時、閉店が午後7時になる場合があります)
 【電話】83-26367
 【運営】エアポート・リラ
 【協力】(株)東川振興公社、東川町

東川の大地で加藤登紀子歌う！

9月27日、羽衣公園にて加藤登紀子歌う手生活55周年記念コンサートを開催しました。加藤さんは、自身の大ヒット曲『百万本のバラ』の原曲『マールが与えた人生』がラトビアの曲であることから、ラトビア・ルーイエナ町と姉妹都市である東川町と交流を開始。東川ソング『こは地球のごまん中』を作詞・作曲するなど東川町とも深い縁のある歌い手です。その人気は、チケット1000枚が開催告知の翌日には配

布終了するほど。この日は2日前に旭岳が初冠雪したほどの肌寒さでしたが、それを「いい風吹いてるね!」と吹き飛ばしたり、「本当はみなさんと抱き合いたくて一杯だったのよ」と言いながらエアハイタッチしたり、観客エリアの中を巡りながら歌ったりと、コロナ禍でもコロナ温まる精一杯のパフォーマンスで会場を勇気づけてくれました。加藤さんと親交のあるマルチタレント・中川翔子さんもゲストとして初来町。曲に込めたたたくさんの想いと元気いっぱい、歌声で会場を盛り上げました。ラストは東川中学校吹奏楽部とドートレトミシーも加わり、盛況のうちに幕を下ろしました。



▲中川翔子さん(左)、加藤登紀子さん(右)

息をのむ奇跡の一枚ー七色の噴水フォトコン

昨年引き続き2回目となった「七色の噴水フォトコンテスト」。今年は5月から7月にかけてインスタグラム(スマホアプリ)で作品を募集したところ、49名から163点の応募がありました。昨年4月にオープンした「七色の噴水」(ノカナン)を題材にした力作ぞろいの

▲最優秀賞の作品

▲Soraさん一家(9月20日)

中から最優秀賞に輝いたのは、東川在住のハンドルネーム・Soraさん。太陽光、噴水、虹、シャボン玉、そして家族が見事に収まった一枚で、審査員の全会一致で選ばれました。9月20日に副賞の「新米東川米1年分」を授与し、Soraさんからは「応募期間中は天候が不安定だったのでなかなかシャッターチャンスがありませんでした。締切の間実際に家族で訪れて撮影した画像が最優秀賞に選ばれて嬉しいです。」と喜びのコメントをいただきました。

この他の入賞作品11点は、ひがしかわ観光協会印の同コンテスト特設ページで見ることができます。虹のかかる「奇跡の一枚」をぜひご覧ください。



ほんの森でおはなし会

9月26日、せんとびゅあにて「おはなしの会ピッピ」が主催した「ほんの森おはなし会」では、5つの絵本を読み聞かせました。それぞれ違った趣向を凝らし、子どもたちを飽きさせません。まずは紙芝居の『アリとバツタとカワセミ』(イ・スジン作)と大型絵本の『めっきらもっきらどおんどん』(長谷川摂子作)。ふだんと違うページのめくり方でも子どもたちの注目を引き付けます。続いてプロジェクターで絵本を壁に映し出し、オノマトペ(擬音語)がたたくさんの『セイウチぼうや』(あべ弘士作)と

『あめだま』(ペク・ヒナ作)を朗読。『あめだま』は7月に駐札幌大韓民国総領事館より寄贈された中の1冊で、手作りの人形を撮影して絵本にした独創的な作品です。最後の『たまごのなかにいるのはだあれ?』(ミアポサダ作)は、読み手が「この卵から生まれてくるのは?」とクイズ形式で子どもたちと「おはなし」しながら読み進めました。

この5冊はいずれもせんとびゅあほんの森に所蔵しています。いろいろな世界に連れて行ってくれる「えほん」の中へ、ぜひお子さんと一緒に冒険してみませんか?



▲色づかいの美しさも絵本の面白さ

今年も「ほんの森」図書まつり

10月11日、せんとびゅあ芝生広場にて図書まつりを開催しました。毎年この時期に行っている「古本リサイクル市」では、ほんの森で使わなくなった絵本、小説、学術書などを無料配布。絵本はほぼ全てが開始から30分ほどで新しい持ち主のもとへ旅立っていく人気があります。

「しばふでおはなしかい」は、午前と午後の2回に分けて子どもたちに絵本やパネルシアターなどを読み聞かせ。手あそびや簡単な歌、体の動きも織り交ぜて、小さいお子さんも自然と「おはなし」に親しめたようでした。



▲どの本がいいかな?もしかして掘り出し物も…?



▲絵本の中のバツタといっしょに「びよーん!」